



ながのけんかしのくに 長野県歌「信濃の国」だよ!



みなさんは長野県歌「信濃の国」を歌えますか? 2011年の信毎こども記者クラブは、「信濃の国」をテーマに、こども記者の記事を信毎こども新聞で紹介したり、取材教室などを開きます。「信濃の国」で歌われている

場所や歴史、人物などについて取材します。今回は「信濃の国」の1番~6番までの全部の歌詞と、わかりやすい言葉になおした文章を紹介します。ちょっとむずかしいけれど、まずは歌詞を声に出して読んでみよう!

長野県のすばらしい自然 その一 1番

信濃の国は十州に
境連ぬる 国にして
磐ゆる山はいや高く
流るる川はいや遠し
松本 伊那 佐久 善光寺
四つの平は肥沃の地
海こそなけれ 物さわか
万ず足らわぬ 事ぞなき

「信濃の国」が作られたのは、今から100年以上前の1899(明治32)年のことです。長野県師範学校(先生を育てる学校、今の信州大学教育学部)の先生が作り、師範学校から巣立った先生たちが長野県内の学校でこの歌を教えたことから県内各地に広まったそうです。1968(昭和43)年に長野県の歌として決められました。

昔の呼び名で数えると、十あるよ。①越後②上野③武蔵④甲斐⑤駿河⑥遠江⑦三河⑧美濃⑨飛騨⑩越中。

県歌 信濃の国

作詞 浅井 冽
作曲 北村 季晴

長野県のさかんだった産業 3番

木曾の谷には 真木茂り
諏訪の湖には 魚多し
民のかせぎも 豊かにて
五穀の実らぬ 里やある
しかのみならず 桑とりて
蚕飼いの業の 打ちひらけ
細きよすがも 軽からぬ
国の命を 繫ぐなり

木曾谷には木が茂り、諏訪湖には魚がたくさんいます。県民はよく働き、穀物など農産物が豊かに実る所はあります。それはかりてなく、桑を育てて蚕を育てる製糸業が盛んになり、養蚕農家は小規模ながらも信濃の国の命を支えています。

蚕は、生糸の原料になるまゆを作る昆虫。かつて長野県は蚕を育てる養蚕がとてまかんで、まゆから生糸を作る製糸業が発展しました。

長野県のすばらしい自然 その二 2番

四方に磐ゆる 山々は
御嶽 乗鞍 駒ヶ岳
浅間は殊に 活火山
いずれも国の 鎮めなり
流れ淀まず ゆく水は
北に犀川 千曲川
南に木曾川 天竜川
これまた国の 固めなり

信濃の国の周囲にそびえる山々は、御嶽山、乗鞍岳、駒ヶ岳。特に浅間山は活火山です。いずれも国を安定させています。北に犀川、千曲川、南に木曾川、天竜川があり、これもまた国を固めています。

標高2568mの浅間山は群馬県との境にあります。今も活動している活火山で、2009年2月にも小さな噴火がありました。

長野県にゆかりある偉人たち 5番

旭将軍 義仲も
仁科の五郎 信盛も
春台 太宰先生も
象山 佐久間先生も
皆此国の 人にして
文武の誉 たぐいなく
山と聳えて 世に仰ぎ
川と流れて 名は尽す

1811(文化8)年、松代藩(今の長野市松代町)に生まれた武士。西洋の科学技術を学んで、現代にも通じる道具を発明したりしました。

長野県のすばらしい名所 4番

尋ねまほしき 園原や
旅のやどりの 寢覚の床
木曾の棧 かけし世も
心してゆけ 久米路橋
くる人多き 筑摩の湯
月の名に立つ 姨捨山
しるき名所と 風雅士が
詩歌に詠てぞ 伝えたる

ぜひ訪ねてみたい所は、園原や、旅の宿で有名な寢覚の床。木曾の棧をかけた時代を思い起こしながら、久米路橋を渡りたいものです。多くの人が訪れる筑摩の湯や、月見で有名な姨捨山。よく知られた名所として、風流な詩人や歌人が漢詩や和歌に詠い、現在まで伝えられています。

松本市の浅間温泉が美ヶ原温泉のことだとされています。普通の橋がかけられない深い谷に、藤のつるを編んでつるした橋のこと。

長野県民へのメッセージ 6番

吾妻はやとし 日本武
嘆き給いし 碓氷山
穿つ隧道 二十六
夢にもこゆる 汽車の道
みち一筋に 学びなほ
昔の人にや 劣るべき
古来山河の 秀でたる
国は偉人の ある習い

みんなが思い浮かべる長野県のすごい人はだれ? 例えば、長野県出身のオリンピック選手はだれかな?

日本武尊が亡き妻を思い出して「わが妻よ」と嘆いた碓氷峠、26ものトンネルが掘られて、汽車が走るまで夢のようでした。一生懸命に学ばなければ、昔の人に劣るはずがありません。なせなら、昔から山や川が美しい自然に恵まれた信濃の国は、すぐれた人物が育つところだからです。



長野県庁の2階に、「信濃の国」の歌詞の木製パネルがかざられています。伊那市の酒井一さんが、文字ずつケヤキなどの木を切り抜き、約2年をかけて完成させたりきさくです!

2011年1月1日付信毎の特別新聞元旦号で、こども記者たちが「信濃の国」にまつわることを取材し、伝えています。ぜひ読んでね!